

## Equivariant S-duality

阪市大理 村山光孝

$G$  を有限群とするとき,  $G$ -equivariant stable homotopy に対して, Spanier [12] と同様の議論ができ, それによって  $G$ -homology と  $G$ -cohomology の間の duality について論じることを目的とする。

§ 1 では, その準備として, unstable  $G$ -homotopy の性質, 特に Blakers-Massey の定理, suspension 同型について調べる。§ 2 では, Equivariant S-duality について, [12], [1] に従って論じる。

### §1 $G$ -homotopy groups

$G$  を compact Lie group とする。  $G$ -CW complex ([9]) は同変写像に対して, CW-complex と同様の構成が可能である。例えば,  $G$ -H.E.P をもち,  $G$ -胞体近似, J.H.C Whitehead の定理, 等が成立する。(cf. [9]) さらに次の命題が成り立つ。

以下、簡略化の為に  $G$ -space を pointed  $G$ -space を表わし、

$G$ -map は基点を保つものとする。又  $\mathcal{A}(G)$  は  $G$  の閉部分群全体からなる集合、とする。

命題 1.1  $X$  を  $G$ -space,  $(K, L)$  を  $G$ -CW complex pair とする。

$\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し  $X^H = \{x \in X \mid gx = x, g \in H\}$  は  $n_H$ -connected, かつ

$\dim_G(K^H - L^H) \leq n_H + 1$ ,  $n_H \geq -1$  ならば, 任意の  $G$ -map

$f: L \rightarrow X$  は  $K$  上に ( $G$ -map として) 拡張可能である。

[証明]  $K$  の  $s$ -skeleton  $K^s$  に  $f$  が帰納的に拡張されることを示す。 $K^{s-1}$  まで拡張されたと仮定する。 $e^s \subset K - L$  を  $s$ -cell と isotropy subgroup が  $H$  であるものとするれば,  $s \leq n_H + 1$ ,  $f(\partial e^s) \subset X^H$  であるから,  $f$  は  $e^s$  に,  $f(\partial e^s) \subset X^H$  をみたすように拡張できる。これを  $G$ -action で拡張すれば,  $f$  は  $K^{s-1} \cup G e^s$  上に  $G$ -map として拡張される。これを続ければよい。 (終)

命題 1.2  $(X, A)$  を  $G$ -space pair,  $(K, L)$  を  $G$ -CW complex pair

とする。 $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し,  $(X^H, A^H)$  は  $n_H$ -connected, かつ

$\dim_G(K^H - L^H) \leq n_H$ ,  $n_H \geq 0$  ならば, 任意の (pair の)  $G$ -map

$f: (K, L) \rightarrow (X, A)$  は,  $A$  への  $G$ -map に  $G$ -homotopic relative  $A$ , である。

証明は 1.1 と同様にすればよい。

写像の  $n$ -equivalence の定義は [13] p404 を参照する。上の

命題により, [13] Theorem 7.6.22, [8] 4章, 定理 2.15 と同様にして

次の命題を得る。

命題 1.3  $X, Y$  を  $G$ -space,  $f: X \rightarrow Y$  を  $G$ -map とする。

$f^H = f|_{X^H}: X^H \rightarrow Y^H$  が  $n_H$ -equivalence,  $n_H > 0, \forall H \in \mathcal{A}(G)$  ならば。

$G$ -CW complex  $K$  に対して,

$$f_*: [K, X]^G \rightarrow [K, Y]^G$$

は, すべての  $H \in \mathcal{A}(G)$  に対して,  $\dim_G K^H < n_H$  のとき同型,  $\dim_G K^H \leq n_H$  のとき全射, である。

この relative form として次を得る。

命題 1.4  $(X, A), (Y, B)$  を  $G$ -space pair で  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し  $(X^H, A^H), (Y^H, B^H)$  は 1-connected とする。  $f: (X, A) \rightarrow (Y, B)$  は  $G$ -map として,

$\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し

$$f_*^H: \pi_i(X^H) \rightarrow \pi_i(Y^H)$$

は  $i < n_H$  のとき同型,  $i = n_H$  のとき全射, であるものとする。

このとき,  $G$ -CW complex  $K$  に対して

$$f_*: [CK, K; X, A]^G \rightarrow [CK, K; Y, B]^G$$

は,  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対して,  $\dim_G K^H + 1 < n_H$  のとき同型,  $\dim_G K^H + 1 \leq n_H$  のとき全射である。(ここで  $CK$  は  $K$  の cone.)

上の命題と Blakers-Massey [5] を組み合わせると次の命題を得る。

命題 1.5  $(X, A)$  は次をみたす  $G$ -space pair とする。

$A$  は  $X$  の closed  $G$ -subspace。  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対して,

(i)  $(X^H, A^H)$  は  $m_H$ -connected,  $m_H \geq 1$ , (ii)  $A^H$  は  $n_H$ -connected,  $n_H \geq 1$

$i: (X, A) \hookrightarrow (X \cup CA, CA)$ ,  $i': (CA, A) \hookrightarrow (X \cup CA, CA)$  を

inclusion とするとき,  $G$ -CW complex  $K$  に対し

$$i_*: [CK, K; X, A]^G \rightarrow [CK, K; X \cup CA, CA]^G,$$

$$i'_*: [CK, K; CA, A]^G \rightarrow [CK, K; X \cup CA, CA]^G$$

は  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し,  $\dim_G K^{H+1} \leq m_H + n_H$  のとき同型,

$\dim_G K^{H+1} \leq m_H + n_H + 1$  のとき全射, である。

$G$ -CW complex pair  $(X, A)$  は  $G$ -HEP をもつので  $X \cup CA \xrightarrow{\cong} X/A$  が成り立つ。従って上の命題を次の様に書き直せる。

定理 1.6  $(X, A)$  は  $G$ -CW complex pair で,  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し

(i)  $(X^H, A^H)$  は  $m_H$ -connected,  $m_H \geq 1$ , (ii)  $A^H$  は  $n_H$ -connected,  $n_H \geq 1$ ,

とする。このとき  $G$ -CW complex  $K$  に対し

$$P_*: [CK, K; X, A]^G \rightarrow [ZK, X/A]^G$$

は  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し,  $\dim_G K^{H+1} \leq m_H + n_H$  のとき同型,

$\dim_G K^{H+1} \leq m_H + n_H + 1$  のとき全射である。

$G$  を有限群とするとき,  $G$ -CW complex は  $G$ -complex (Bredon [6])

になる。  $G$ -spectrum  $\mathbb{E} = \{E_n, \varepsilon_n, n \in \mathbb{Z}\}$  を次の様に定義する。(cf [1])

$W$  を, 同値でない既約  $G$ -module を 1 つずつ含む  $G$ -module と

する。  $E_n$  は  $G$ -complex の  $G$ -homotopy type をもつ  $G$ -space とし,

$\varepsilon_n: \Sigma^W E_n \rightarrow E_{n+1}$  を  $G$ -map とする。ここで  $\Sigma^W$  は  $W$  の 1 点 compact

化である。 Smooth  $G$ -manifold は  $G$ -CW complex structure をもつ

( $G$  が compact Lie group のとき, [10]) の  $\mathbb{Z}$ ,  $\mathbb{Z}^w$  は  $G$ -CW complex structure を (従って  $G$ -complex structure を) もつ。

$G$ -spectrum  $\mathbb{E}$ ,  $G$ -space  $X, Y$ ,  $\alpha = \mathbb{U} - \mathbb{W} \in \text{RO}(G)$ ,  $\mathbb{U}, \mathbb{W}$   $G$ -module に対し  $[X, \mathbb{E} \wedge Y]^G$  を

$$[X, \mathbb{E} \wedge Y]^G = \varinjlim_n [\Sigma^{n\alpha + \mathbb{U}} X, E_n \Sigma^{\mathbb{W}} \wedge Y]^G$$

( $\Sigma^{\mathbb{U}} X = \Sigma^{\mathbb{U}} \wedge X$ ,  $E_n \Sigma^{\mathbb{W}} = E_n \wedge \Sigma^{\mathbb{W}}$ ) と定義する。  $X$  を fixed finite  $G$ -complex とするとき, 上の定理が適用できて,  $[X, \mathbb{E} \wedge (\cdot)]^G$  は  $G$ -complex の category 上の half exact functor であることが示される。

次に写像空間  $\mathbb{F}(X, Y)$  について論じる。  $G$ -space  $X, Y$  に対して  $\mathbb{F}(X, Y)$  は,  $G$ -action を,  $g \cdot f(x) = g f(g^{-1}x)$  で定義して  $G$ -space になる。このとき,  $\mathbb{F}(X, Y)^G$  は  $G$ -map 全体になる。特に,  $\mathbb{F}(X^G, Y)^G = \mathbb{F}(X^G, Y^G)$  となる。又  $Y$  を locally compact  $G$ -space,  $X, Z$  を  $G$ -space とすると,

$$[X \wedge Y, Z]^G \cong [X, \mathbb{F}(Y, Z)]^G$$

が成立する。このとき次が成り立つ。

補題 1.17  $X$  を locally compact  $G$ -CW complex,  $Y$  を  $G$ -space とする。  $\gamma: \mathbb{F}(X, Y)^G \rightarrow \mathbb{F}(X^G, Y)^G = \mathbb{F}(X^G, Y^G)$  を制限写像とする。  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し,  $Y^H$  は  $n_H$ -connected,  $n_H \geq 0$  とするとき

$$\gamma_*: \pi_j(\mathbb{F}(X, Y)^G) \rightarrow \pi_j(\mathbb{F}(X^G, Y^G))$$

は  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し,  $j \leq n_H$  のとき同型,  $j \leq n_H + 1$  のとき全射

である。ここで

$$N_H = \begin{cases} n_H - \dim_G (X^H - X^G) & \text{if } X^H \neq X^G \\ \infty & \text{if } X^H = X^G \end{cases}$$

[証明]  $\pi_0(F(X, Y)^G) = [\Sigma^1, F(X, Y)^G] \cong [\Sigma^1 \wedge X, Y]^G$

であるから

$$(1 \wedge \lambda)_* : [\Sigma^1 \wedge X, Y]^G \rightarrow [\Sigma^1 \wedge X^G, Y]^G$$

を考えればよい。命題 1.1 を用いて、 $\lambda$  に対して [8], 4 章定理 2.15 と同様な議論を行なえば、この命題を得る。終

$X, Y$  を  $G$ -space とする。  $G$ -module  $V$  に対し  $\Sigma^V$ -suspension

$$\Sigma_*^V : [X, Y]^G \rightarrow [\Sigma^V X, \Sigma^V Y]^G$$

を考える。これは adjoint isomorphism

$$[\Sigma^V X, \Sigma^V Y]^G \cong [X, \Omega^V \Sigma^V Y]^G$$

を通して次の写像に移して考えることができる。

$$\lambda_* : [X, Y]^G \rightarrow [X, \Omega^V \Sigma^V Y]^G$$

ここで  $\Omega^V \Sigma^V Y = F(\Sigma^V, \Sigma^V Y)$ ,  $\lambda : Y \hookrightarrow \Omega^V \Sigma^V Y$  は  $\lambda(y)(t) = (t, y)$

で定義される inclusion である。  $\Sigma^V$  は compact  $G$ -CW complex と考えられるので、 $\lambda_*$  に上の命題を適用して次を得る。

定理 1.8  $X$  は  $G$ -CW complex,  $Y$  は  $G$ -space with non-degenerate base point とする。  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し  $Y^H$  は  $n_H$ -connected,  $n_H \geq 0$  ならば

$$\Sigma_*^V : [X, Y]^G \rightarrow [\Sigma^V X, \Sigma^V Y]^G$$

は,  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対して,  $\dim_{\mathbb{F}} X^H \leq \min_{H' \in \mathcal{A}(H)} N_{H'}^H$  のとき同型,

$\dim_{\mathbb{F}} X^H \leq \min_{H' \in \mathcal{A}(H)} N_{H'}^H + 1$  のとき全射である。ここで

$$N_{H'}^H = \begin{cases} 2N_H & \text{if } H'=H \text{ かつ } \mathcal{V}^H \neq \{0\} \\ N_{H'} - 1 + \dim \mathcal{V}^{H'} - \dim_{\mathbb{H}}(\mathcal{V}^{H'} - \mathcal{V}^H) & \text{if } \mathcal{V}^{H'} \neq \mathcal{V}^H \\ \infty & \text{others} \end{cases}$$

注意,  $\dim \mathcal{V}^{H'}$  は, 一般には  $\dim_{\mathbb{H}} \mathcal{V}^{H'}$  とは異なるが,  $G$  が有限群 ( $\dim G = 0$ ) のときは一致する。 ( $\dim_{\mathbb{F}} X^H$  は  $G \cdot X^H$  の  $G$ -CW complex としての次元を表わす。) 従って,  $G$  が有限群のとき, 上の  $N_{H'}^H$  で  $\mathcal{V}^{H'} \neq \mathcal{V}^H$  の部分は  $(N_{H'} - 1)$  と書き直される。

[証明] 次の可換図式を考える。

$$\begin{array}{ccc} \pi_j(Y^H) & \xrightarrow{\lambda_*^H} & \pi_j((\Omega^{\mathcal{V}} \Sigma^{\mathcal{V}} Y)^H) \\ & \searrow \lambda_{H*} & \swarrow \nu_{H*} \\ & & \pi_j(\Omega^{\mathcal{V}^H} (\Sigma^{\mathcal{V}} Y)^H) \end{array}$$

ここで,  $\lambda$ ,  $\lambda_H$  は inclusion,  $\nu_H$  は restriction である。

$\lambda_H$  は suspension theorem により  $(2N_H + 1)$ -equivalence である。特に  $\mathcal{V}^H = \{0\}$  のときは  $\Omega^{\mathcal{V}^H} \Sigma^{\mathcal{V}^H} Y^H = Y^H$  となるので  $\lambda_H$  は  $\infty$ -equivalence である。又,  $\nu_H$  は補題 1.7 により  $(\min_{H' \in \mathcal{A}(H)} M_{H'}^H + 1)$ -equivalence である。ここで

$$M_{H'}^H = \begin{cases} N_{H'} + \dim \mathcal{V}^{H'} - \dim_{\mathbb{H}}(\mathcal{V}^{H'} - \mathcal{V}^H) & \text{if } \mathcal{V}^{H'} \neq \mathcal{V}^H \\ \infty & \text{if } \mathcal{V}^{H'} = \mathcal{V}^H \end{cases}$$

である。今  $\lambda_{H*}$  が単射であるのは  $\lambda_{H*}$  が単射のとき, 又全射

であるのは  $\lambda_{H*}$  が全射かつ  $\lambda_{H*}$  が同型の時である。

これらを組み合わせて  $\lambda^H$  が  $(\min_{H \in \mathcal{A}(H)} N_{H'}^H + 1)$ -equivalence であることがわかる。これに命題 1.3 を適用すればよい。 終

注意  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対して,  $\forall^H \neq 1$  となる (既約)  $G$ -module が存在する。従って  $G$  を有限群とするとき,  $\omega$  はこの様なものをすべて含んでいるので  $H' \subseteq H$  なる部分群  $H, H'$  に対して  $\dim V^{H'} \geq \dim V^H + 1$  となる。  $\pi_{\mathbb{Z}}^G(X) = [\Sigma^{\nu}, X]^G$  とするとき, 上の定理より,  $\Sigma_*^{\omega}: \pi_{\mathbb{Z}}^G(\Sigma^{n\omega} X) \rightarrow \pi_{\mathbb{Z}}^G(\Sigma^{(n+1)\omega} X)$  は  $n \geq 2$  のとき同型,  $n \geq 1$  のとき全射である。

## § 2 Equivariant S-duality

$G$  は有限群とする。  $\alpha$ -th stable  $G$ -homotopy group を

$$\{X, Y\}_{\alpha}^G = \varinjlim_{\nu} [\Sigma^{n\omega + \nu} X, \Sigma^{n\omega + \nu} Y]^G$$

と表わす。ここで  $\alpha = \nu - \omega \in RO(G)$ 。  $\mathcal{C}_{\mathbb{Z}}^G$  を  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対して  $X^H$  が path-connected である様な (finite)  $G$ -complex  $X$  の category とする。  $X, X' \in \mathcal{C}_{\mathbb{Z}}^G$  に対し  $G$ -map  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\nu}$  を,  $\forall H \in \mathcal{A}(G)$  に対し  $u^H: X^H \wedge X'^H \rightarrow \Sigma^{\nu H}$  が duality map であるとき ([12]),

$\nu$ -duality  $G$ -map と呼ぶ。又このとき  $X'$  を  $X$  の  $\nu$ -dual と呼ぶ。

$u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\nu}$  に対し,  $\bar{u}: X' \wedge X \xrightarrow{\cong} X \wedge X' \xrightarrow{u} \Sigma^{\nu}$ ,

$u_{\nu_1, \nu_2}: \Sigma^{\nu_1} X \wedge \Sigma^{\nu_2} X' \xrightarrow{\cong} \Sigma^{\nu_1} X \wedge \Sigma^{\nu_2} X \wedge X' \xrightarrow{1 \wedge u} \Sigma^{\nu_1 + \nu_2} \Sigma^{\nu} = \Sigma^{\nu_1 + \nu_2 + \nu}$  も又

duality  $G$ -map である。



$Y$  を finite  $G$ -complex,  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\bar{v}}$  を duality  $G$ -map とする。  
 準同型  $\Gamma_u^\alpha: \{Y, X\}_\alpha^G \rightarrow \{Y \wedge X', \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G$ ,  $\bar{\Gamma}_u^\alpha: \{Y, X'\}_\alpha^G \rightarrow \{X \wedge Y, \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G$   
 を次の様に定義する。  $G$ -map  $f: \Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y \rightarrow \Sigma^{n\omega+\bar{w}} X$  に対し,  
 $\Gamma_u^\alpha \{f\} \in \{Y \wedge X', \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G$  は、次の写像の合成で代表される。

$$\Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y \wedge X' \xrightarrow{f \wedge 1} \Sigma^{n\omega+\bar{w}} X \wedge X' \xrightarrow{1 \wedge u} \Sigma^{n\omega+\bar{w}} \Sigma^{\bar{v}}, \text{ 即ち } \Gamma_u^\alpha \{f\} = \{u_{n\omega+\bar{w},0} \circ f\}$$

又  $G$ -map  $f': \Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y \rightarrow \Sigma^{n\omega+\bar{w}} X'$  に対し  $\bar{\Gamma}_u^\alpha \{f'\} \in \{X \wedge Y, \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G$  は  
 次の写像の合成で代表される。

$$\Sigma^{n\omega+\bar{v}} X \wedge Y \xrightarrow{\tau \wedge 1} X \wedge \Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y \xrightarrow{1 \wedge f'} X \wedge \Sigma^{n\omega+\bar{w}} X' \xrightarrow{u_{n\omega+\bar{w}}} \Sigma^{n\omega+\bar{w}} \Sigma^{\bar{v}}$$

即ち,  $\bar{\Gamma}_u^\alpha \{f'\} = \{u_{n\omega+\bar{w}} \circ (1 \wedge f') \circ (\tau \wedge 1)\}$ .

定理 2.1  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\bar{v}}$  を duality  $G$ -map とする。このとき  
 finite  $G$ -complex  $Y$ ,  $\alpha \in RO(G)$  に対して  $\Gamma_u^\alpha, \bar{\Gamma}_u^\alpha$  は同型である。

$$\Gamma_u^\alpha: \{Y, X\}_\alpha^G \cong \{Y \wedge X', \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G, \quad \bar{\Gamma}_u^\alpha: \{Y, X'\}_\alpha^G \cong \{X \wedge Y, \Sigma^{\bar{v}}\}_\alpha^G$$

[証明]  $\Gamma_u^\alpha$  のみを考える。 $\bar{\Gamma}_u^\alpha$  も同様にすればよい。

次の可換図式を考える。

$$\begin{array}{ccc} [\Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y, \Sigma^{n\omega+\bar{w}} X]_G & \xrightarrow{u_{n\omega+\bar{w}}} & [\Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y \wedge X', \Sigma^{n\omega+\bar{w}} \Sigma^{\bar{v}}]_G \\ \lambda_{n\omega+\bar{w}} \searrow & & \swarrow \mu_{n\omega+\bar{w}} \\ & & [\Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y, H(X', \Sigma^{n\omega+\bar{w}} \Sigma^{\bar{v}})]_G \end{array}$$

こゝで,  $u_{n\omega+\bar{w}} [f] = [u_{n\omega+\bar{w},0} \circ f \wedge 1]$ ,  $\lambda_n(x)(x') = u_{n\omega+\bar{w},0}(x, x')$   
 $x \in \Sigma^{n\omega+\bar{v}} Y, x' \in X'$ ,  $u_{n\omega+\bar{w}}$  は adjoint isomorphism である。又,  
 $\lim_n u_{n\omega+\bar{w}} = \Gamma_u^\alpha$  であるから, 十分大なる  $n$  に対して  $\lambda_{n\omega+\bar{w}}$  が同型  
 であれば  $\Gamma_u^\alpha$  が同型になる。従って  $\lambda_n$  を考えればよい。

次の可換図式を考える。 ( $H \in \mathcal{A}(G)$ )

$$\begin{array}{ccc}
 \pi_j((\Sigma^{n\omega+\bar{w}}X)^H) & \xrightarrow{\lambda_{n*}^H} & \pi_j(F(X', \Sigma^{n\omega+\bar{w}}\Sigma^{\bar{v}})^H) \\
 \Psi_{H, n*} \searrow & & \swarrow \gamma_{H*} \\
 & & \pi_j(F(X'^H, (\Sigma^{n\omega+\bar{w}}\Sigma^{\bar{v}})^H))
 \end{array}$$

ここで  $\gamma_H$  は restriction,  $\Psi_{H, n}(X)(X') = \mathcal{U}_{n\omega+\bar{w}, 0}^H(X, X')$  である。

[12] により  $\Psi_{H, n*}$  は  $(\Sigma^{n\omega+\bar{w}}X)^H, F(X'^H, (\Sigma^{n\omega+\bar{w}}\Sigma^{\bar{v}})^H)$  が 1-connected なら、 $j < 2(k - \dim X'^H)$ ,  $k = \dim(n\omega + \bar{w} + \bar{v})^H$  のとき同型であり

$\gamma_{H*}$  は補題 1.7 より  $j \leq \min_{H' \in \mathcal{A}(H)} N_{H'}^H$  のとき同型である。

$$N_{H'}^H = \begin{cases} n \dim \omega^{H'} + \dim(\bar{w} + \bar{v})^{H'} - 1 - \dim(X'^{H'} - X^H) & \text{if } X'^{H'} \neq X^H \\ \infty & \text{if } X'^{H'} = X^H \end{cases}$$

従って  $\lambda_{n*}^H$  は  $j \leq (n-1) + \dim(n\omega + \bar{w} + \bar{v})^H - 2 \dim X'$  のとき同型,

従って命題 1.3 より  $\lambda_{n*}^H$  は  $n \geq 2 \dim X' + \dim Y + \dim \bar{v} + 2$  のとき同型,

即ちこのとき  $\mathcal{U}_{n*}^H$  も同型であるから  $\Psi_{n*}^H$  は同型である。

終

命題 2.2  $X, X'$  を  $\Sigma^{\bar{v}+1}(\Sigma^{\bar{w}+\bar{r}})$  の  $G$ -sub-complex  $i$   $X, X' \in \mathcal{C}_{\bar{w}}^G$

、 $X \cap X' = \emptyset$ , かつ inclusion  $X' \hookrightarrow \Sigma^{\bar{v}+1}X$  が  $G$ -homotopy equivalence

であるものとする。このとき  $\bar{v}$ -duality  $G$ -map  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\bar{v}}$

が存在する。

$u$  の構成は [11] と同様にすればよい。このとき再び [11] に

より  $u^H$  が duality map となり命題を得る。

定理 2.3 任意の finite  $G$ -complex  $X$  には  $S$ -dual が存在する。

[証明] もし,  $X \in \mathcal{C}_{\text{fin}}^G$  なら,  $\exists X' \in \mathcal{C}_{\text{fin}}^G$  をとることにより,  $X \in \mathcal{C}_{\text{fin}}^G$  と仮定してよい。  $X \simeq K$  なる finite simplicial  $G$ -complex が存在するのでこれにおきかえて考える。 適当な  $\Sigma^{\mathbb{Z}+1}$  をとり  $K$  を  $\Sigma^{\mathbb{Z}+1}$  に (単体的に)  $G$ -subcomplex としてうめこみ, その補複体  $X'$  が  $X' \in \mathcal{C}_{\text{fin}}^G$  となる様にできる。 従って上の命題より結果を得る。 終

定理 2.4  $X$  を compact smooth  $G$ -manifold とする。

$\nu$  をある (同変) うめこみ  $(X, \partial X) \subset (B(\mathbb{V}+\mathbb{R}), S(\mathbb{V}+\mathbb{R}))$  の normal bundle とすると, Thom space  $T(\nu)$  は  $X/\partial X$  の  $S$ -dual である。 ここで  $B(\mathbb{V}+\mathbb{R}), S(\mathbb{V}+\mathbb{R})$  は  $\mathbb{V}+\mathbb{R}$  の unit ball と unit sphere である。

これは Atiyah [4] proposition (3.2) の equivariant version であり, 証明も同様にすればよい。 又上の  $\mathbb{V}+\mathbb{R}$  は,  $\mathbb{V}^G \neq \{0\}$  なら  $\mathbb{V}$  におきかえてもよい。

例,  $G/H^+ = G/H \cup \{pt\}$  は  $G/H^+$  の  $S$ -dual である。(  $G$ : finite に注意)

以下の結果 2.5 ~ 2.8 は Spanier [12] p365 以下に対応し, 証明も同様にできる。(又は [12] の結果を使えばよい。)

定理 2.5  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^{\mathbb{V}}$ ,  $v: Y \wedge Y' \rightarrow \Sigma^{\mathbb{W}}$  を duality とすると同型  $D_{\mathbb{V}}^{\alpha}(u, v) = (\overline{\mathbb{P}}^{\alpha})^{\dagger} \cdot \overline{\mathbb{P}}^{\alpha} : \{X, Y\}_{\alpha}^G \cong \{Y', X'\}_{\alpha}^G$  が存在して,  $D_{\mathbb{V}}^{\alpha}(u, v)$  が逆写像であり, 又十分大なる  $n$  と  $f: \Sigma^{n\mathbb{W}+\mathbb{V}} X \rightarrow \Sigma^{n\mathbb{W}+\mathbb{V}} Y$ ,  $f': \Sigma^{n\mathbb{W}+\mathbb{V}} Y' \rightarrow \Sigma^{n\mathbb{W}+\mathbb{V}} X'$  に対し,  $D_{\mathbb{V}}^{\alpha}(u, v) \{f\} = \{f'\}$  となるのは, 次の図式が  $G$ -homotopy 可換 であるときに限る。

$$\begin{array}{ccc} \Sigma^{nw+\sigma} X \wedge Y' & \xlongequal{\quad} & X \wedge \Sigma^{nw+\sigma} Y' \\ \downarrow \wedge \downarrow & & \downarrow \wedge \downarrow \\ \Sigma^{nw+\sigma} Y \wedge Y' & \xrightarrow{\nu_{nw+\sigma}} & \Sigma^{nw+\sigma} X \wedge X' \end{array} \quad \circ$$

suspension 同型  $\sigma^\nabla: \{X, Y\}_\alpha^G \rightarrow \{\Sigma^\nabla X, \Sigma^\nabla Y\}_\alpha^G$  を  $\{f\} \in \{X, Y\}_\alpha^G$

に  $\Sigma^{nw+\sigma} X \rightarrow \Sigma^{nw+\sigma} Y$  に対し, 写像の合成

$$\Sigma^{nw+\sigma} \Sigma^\nabla X \xrightarrow{\tau_1} \Sigma^\nabla \Sigma^{nw+\sigma} X \xrightarrow{\wedge f} \Sigma^\nabla \Sigma^{nw+\sigma} Y \xrightarrow{\tau_1} \Sigma^{nw+\sigma} \Sigma^\nabla Y$$

を定義する。このとき, 次が成立する。

命題 2.6  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^\nabla, v: Y \wedge Y' \rightarrow \Sigma^\nabla$  を duality とする。

このとき次の図式は可換である。

$$\begin{array}{ccc} \{X, Y\}_0^G & \xrightarrow{D_\nabla^0(u,v)} & \{Y', X'\}_0^G \\ \downarrow \sigma^\nabla & \nearrow & \downarrow \sigma^\nabla \\ \{\Sigma^\nabla X, \Sigma^\nabla Y\}_0^G & \xrightarrow{D_{\nabla+\sigma}^0(u_0, v_0)} & \{\Sigma^\nabla Y', \Sigma^\nabla X'\}_0^G \end{array} \quad , \quad \begin{array}{ccc} \{X, Y\}_0^G & \xrightarrow{D_\nabla^0(u,v)} & \{Y', X'\}_0^G \\ \downarrow \sigma^\nabla & \searrow & \downarrow \sigma^\nabla \\ \{\Sigma^\nabla X, \Sigma^\nabla Y\}_0^G & \xrightarrow{D_{\nabla+\sigma}^0(u_0, v_0)} & \{\Sigma^\nabla Y', \Sigma^\nabla X'\}_0^G \end{array}$$

命題 2.7  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^\nabla, v: Y \wedge Y' \rightarrow \Sigma^\nabla, w: Z \wedge Z' \rightarrow \Sigma^\nabla$  を duality とする。  $\alpha \in \{X, Y\}_0^G, \beta \in \{Y, Z\}_0^G$  とするとき,  $\beta\alpha \in \{X, Z\}_0^G$

$$D_\nabla^0(u,w) \beta\alpha = (D_\nabla^0(u,v)\alpha) \circ (D_\nabla^0(v,w)\beta) \quad \text{である。}$$

$u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^\nabla, v: Y \wedge Y' \rightarrow \Sigma^\nabla$  を duality とする。

に  $X \rightarrow Y, f': Y' \rightarrow X'$  に対し, 次の図式は G-homotopy 可換

$$\begin{array}{ccc} X \wedge Y' & \xrightarrow{\wedge f'} & X \wedge X' \\ \downarrow \wedge \downarrow & & \downarrow u \\ Y \wedge Y' & \xrightarrow{v} & \Sigma^\nabla \end{array}$$

とする。このとき  $w: C_f \wedge C_{f'} \rightarrow \Sigma \Sigma^\nabla = \Sigma^{1+\nabla}$  を [12] p374

と同様に定義する。(但し parameter の位置は逆)  $C_f$  は  $f$  の mapping

cone である。

定理 2.8 上に定義した  $w$  は  $(\nabla+1R)$ -duality G-map である。

次の  $(V+R)$ -duality の  $G$ -homotopy 可換図式が成り立つ。

$$\begin{array}{ccccccc}
 X \wedge \Sigma Y' & & Y \wedge G & & G \wedge X' & & \Sigma X \wedge Y' \\
 \swarrow \wedge \Sigma f & \searrow f \wedge 1 & \swarrow \wedge p' & \searrow p \wedge 1 & \swarrow \wedge i & \searrow i \wedge 1 & \swarrow \wedge f & \searrow f \wedge 1 \\
 X \wedge \Sigma X' & & Y \wedge \Sigma Y' & & G \wedge G & & \Sigma X \wedge X' & & \Sigma Y \wedge Y' \\
 \downarrow u_{0,1} & & \downarrow v_{0,1} & & \downarrow w & & \downarrow u_{1,0} & & \downarrow v_{1,0} \\
 \Sigma^{H^V} & = & \Sigma^{H^V} & = & \Sigma^{H^V} & = & \Sigma^{H^V} & = & \Sigma^{H^V} //
 \end{array}$$

duality  $G$ -map  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^V$ , finite  $G$ -complex  $Y$ ,  $G$ -complex  $Z$  に対し, 準同型  $\Gamma_u^\alpha(Y, Z): \{Y, X \wedge Z\}_\alpha^G \rightarrow \{Y \wedge X', \Sigma^V Z\}_\alpha^G \in$ , 次の写像の合成で定義する。

$$\{Y, X \wedge Z\}_\alpha^G \xrightarrow{(\wedge X')^*} \{Y \wedge X', X \wedge Z \wedge X'\}_\alpha^G \xrightarrow{(\wedge 1)^*} \{Y \wedge X', X \wedge X' \wedge Z\}_\alpha^G \xrightarrow{(u \wedge 1)^*} \{Y \wedge X', \Sigma^V Z\}_\alpha^G$$

定理 2.9 上の  $\Gamma_u^\alpha(Y, Z)$  は, 同型である。 //

$Z$  が finite  $G$ -complex の場合は [2] と同様にできる。  $Z$  が  $G$ -complex の場合,  $\{Y, X \wedge (\ )\}_\alpha^G, \{Y \wedge X', \Sigma^V (\ )\}_\alpha^G$  は共に加法性公理をみたす  $G$ -complex 上の reduced  $G$ -homology theory になり, 比較定理により,  $Z = G/H^+$ ,  $H \in \mathcal{A}(G)$  の場合に  $\Gamma_u^\alpha(Y, Z)$  が同型であるから,  $Z$  が  $G$ -complex のときにも同型である。

$\mathbb{E}$  を  $G$ -spectrum とする。  $G$ -complex  $X$  に対し

$$[X, \mathbb{E}]_\alpha^G = \varinjlim_n [\Sigma^{nW+V} X, \Sigma^V \mathbb{E}_n]^G = \varinjlim_m \varinjlim_n [\Sigma^{mW} \Sigma^{nW+V} X, \Sigma^{nW} \Sigma^V \mathbb{E}_n]^G$$

であるから,  $[X, \mathbb{E}]_\alpha^G = \varinjlim_n \{ \Sigma^{nW+V} X, \Sigma^V \mathbb{E}_n \}_0^G$  である。

定理 2.10  $u: X \wedge X' \rightarrow \Sigma^V$  を duality,  $\mathbb{E}$  を  $G$ -spectrum

$Y$  を finite  $G$ -complex とする。このとき同型

$$\Gamma_u^\alpha(Y, \mathbb{E}) : [Y, X \wedge \mathbb{E}]_\alpha^G \cong [Y \wedge X', \Sigma^V \mathbb{E}]_\alpha^G \cong \left( \sigma_{\Sigma^V} \right)^{-1} [Y \wedge X', \mathbb{E}]_{\alpha \wedge \Sigma^V}^G$$

が成り立つ。ここで  $\sigma_{\Sigma^V}$  は  $G$ -homology の suspension 同型である。

特に  $\tilde{h}_G^\alpha(X; \mathbb{E}) = [X, \mathbb{E}]_\alpha^G$ ,  $\tilde{h}_G^\alpha(X; \mathbb{E}) = [\Sigma^0, \mathbb{E} \wedge X]_\alpha^G$  とおくと,

$\tilde{h}_G^*$  は reduced  $G$ -cohomology theory に,  $\tilde{h}_G^\alpha$  は reduced  $G$ -homology theory になる。従って定理 2.10 より次を得る。

系 2.11  $\Gamma(\Sigma^0, \mathbb{E}) : \tilde{h}_G^\alpha(X; \mathbb{E}) \cong \tilde{h}_G^{\mathbb{E} \wedge X}(X; \mathbb{E})$

$\tilde{h}_G^\alpha$  を finite  $G$ -complex の category  $\mathcal{C}\mathcal{F}_0^G$  上の  $G$ -homology theory とする。finite  $G$ -complex  $X$  に対し  $S$ -dual  $X'$  が存在するから,

$u : \Sigma^{\mathbb{E} \wedge X} \wedge \Sigma^{\mathbb{E} \wedge X'} \rightarrow \Sigma^{\mathbb{E} \wedge X'}$  をこの duality  $G$ -map とする。  $\alpha \in RO(G)$  に対し,

$\tilde{h}_G^\alpha(X) = \tilde{h}_G^{\mathbb{E} \wedge X - \mathbb{E} \wedge X'}(X')$  と定義し, [1] p250 と同様の考察を行なえば,

$\tilde{h}_G^*$  が  $\mathcal{C}\mathcal{F}_0^G$  上の reduced  $G$ -cohomology theory になることが分かる。又 [2] により  $\tilde{h}_G^*$  は  $\Omega$ - $G$ -spectrum で表現される。

従って次を得る。(これは,  $G, \mathbb{W}$ , Whitehead [4] の方法である。)

定理 2.12  $\mathcal{C}\mathcal{F}_0^G$  上の  $G$ -homology theory は  $\Omega$ - $G$ -spectrum で

表現される。又  $G$ -complex の category  $\mathcal{C}\mathcal{W}^G$  上の  $G$ -homology theory

(加法性公理をみたらす) は  $\Omega$ - $G$ -spectrum で表現される。

$G = \mathbb{Z}_2$  の場合, MR-theory を考える。[7] (cf. [3]). Smooth  $\mathbb{Z}_2$ -

manifold  $M$  の normal bundle  $\nu$  が [7] の意味の 'real' vector

bundle になるとき,  $M$  を weakly 'real-complex' manifold と呼ぶ

ことにする。このとき Thom class  $t(\nu) \in MR^{n,n}(T(\nu))$  ( $n = \dim \nu$ )

と Thom 同型  $\Phi(\nu)^* : MR^{R^0}(M) \cong \widetilde{MR}^{P+n, q+n}(T(\nu)),$

$\Phi(\nu)^* : \widetilde{MR}^{P+n, q+n}(T(\nu)) \cong MR_{P; q}(M)$ , が存在する。[7] 又  $\Phi M = M^{\mathbb{Z}_2}$

は uniform dimension をもつ。定理 2.4 とこれを組み合わせ

$\mathbb{Z}$  次を得る。

定理 2.13  $M$  を  $\dim M = m+n$ ,  $\dim \Phi M = n$  なる compact weakly 'real complex' manifold とする。このとき (Poincaré) duality 同型

$$DM: MR_{p,q}(M) \cong MR^{m-p, n-q}(M, \partial M),$$

$$DM: MR_{p,q}(M, \partial M) \cong MR^{m-p, n-q}(M), \quad p, q, m, n \in \mathbb{Z}$$

が存在する。

### 参考文献

- [1] 荒木捷朗, 一般コホモロジー, 紀伊国屋書店 1975
- [2] S. Araki, M. Murayama  $G$ -homotopy types of  $G$ -complex and representations of  $G$ -cohomology theories. to appear Publ. R.I.M.S Kyoto Univ.
- [3] S. Araki, M. Murayama  $\mathbb{Z}$ -cohomology theories to appear Japanese J. of Math.
- [4] M.F. Atiyah Thom complexes Proc. London Math. Soc. (3) 11 (1961) 291-310
- [5] A.L. Blakers, W.S. Massey The homotopy groups of a triad I, II, Ann. of Math 53 (1951) 161-205, 55 (1952) 192-201
- [6] G. Bredon. Equivariant cohomology theories Lect. Note in Math 34, 1967
- [7] M. Fujii Cobordism theory with reality Math J. Okayama Univ. 18 (1976) 171-188
- [8] 小松, 中岡, 菅原, 位相幾何学 I, 岩波書店 1967
- [9] T. Matumoto. On  $G$ -CW complexes and a theorem of J.H.C. Whitehead J. Fac. Sci. Univ. Tokyo Sect. I, 18 (1971) 363-374.
- [10] T. Matumoto Equivariant stratification of a differentiable transformation

group (to appear)

- [1] E. H. Spanier Infinite symmetric product, function spaces, and duality Ann. of Math. 69 (1959) 142-198
- [2] E. H. Spanier Function spaces and duality, Ann. of Math 70 (1959) 338-378
- [3] E. H. Spanier Algebraic topology MC Graw-Hill 1966.
- [4] G. W. Whitehead Generalized homology theories Trans. Amer. Math. Soc. 102 (1962) 227-283